

cado

除湿機
DH-C7000

取扱説明書

日本国内専用 (Use only in Japan)

目次

- 1 安全上のご注意
- 4 各部のなまえとはたらき
- 5 設置について
- 6 除湿機能について
- 7 準備する
- 8 使いかた
- 11 排水のしかた
- 13 お手入れのしかた
- 15 故障かな?と思ったときは
- 17 仕様

安全上のご注意 必ずお守りください

商品及び取扱説明書には、お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を防止するために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みください。

内容を無視して、誤った取り扱いをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

表示の説明



警告 「死亡または重傷を負うおそれがあること」を示します。



注意 「軽傷を負う、または家財に損害を与えるおそれがあること」を示します。

図記号の説明



禁止 「してはいけない禁止事項」を示します。



指示 「必ずしなければならない強制事項」を示します。



警告



禁止

❖ **電源プラグの抜き差しによる運転や停止をしない。**
火災や感電の原因になります。

❖ **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない**
感電の原因になります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、ショートや断線して感電や火災の原因になります。

電源コードに対して、下記のことを守ってください。

- 加工したり、傷つけたりしない。
- 無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものをのせたりしない。
- 熱器具に近づけない。
- 加熱しない。
- 電源プラグを持たずに引き抜かない。
- 持ち運び時に電源コードを引っ張らない。

❖ **交流100V以外で使わない**
火災や感電の原因になります。

❖ **コンセントや配線器具の定格を超える使い方をしない**
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因になります。

❖ **お客様自身で、分解や改造、修理しない**
火災や感電、けがの原因になります。
修理はお買い上げの販売店、または最寄りのお客様ご相談窓口にご相談ください。

❖ **下記の場所では使用しない**

- 可燃性ガスや金属製のホコリがある場所
引火や本体への吸引による発火・発煙の原因になります。
- 機械油や食用油の油成分が浮遊している場所
本体にひびが入り、電源部やファン部分が露出し、感電やけがの原因になります。
- 幼児の手の届く所
感電やけがの原因になります。

❖ **水につけたり、水をかけたりしない**
火災や感電の原因になります。

❖ **火のついたタバコや線香を近づけない**
火災の原因になります。

❖ **吹出口からの噴霧気は、故意に吸入しない。**

❖ **吹出口、本体のすき間に針金などの金属を入れない。**
感電・ショート・発火の原因になります。

❖ **お手入りに塩素系、アルカリ性の洗剤を使わない。**

◀ ピーズガードタンクには、ピースガード^{※1}以外のものは入れない。

ピースガード以外の製品を使用しないでください。酸性タイプの製品をピースガードに混ぜると有毒ガスが発生する危険があるため、併用・混合はしないでください。^{※2}

※1：除菌・消臭剤ピースガードは株式会社ピースガード社の登録商標です。

※2：ピースガードの保管や使用上の注意に関してはピースガードのボトルのラベルをご参照ください。

！ 指示

◀ 電源プラグは、根元までしっかり差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や火災の原因になります。

・破損した電源コードや電源プラグ、差し込みがゆるいコンセントは使わない。

◀ 電源プラグのホコリなどは、定期的に乾いた布でふき取る

ホコリがたまると、湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

・長時間使わないときは、電源プラグをコンセントから抜く。

◀ お手入れ、点検、移動の際は必ず運転を停止し、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままにすると、感電やけがの原因になります。

◀ 異常、故障時は運転をただちに停止し、電源プラグを抜く

異常のまま運転を続けると、故障や感電、発煙、火災の原因になります。

<異常、故障の例>

- ・コードを動かすと通電したり、しななかったりする。
- ・運転中に異常な音や振動がする。
- ・本体や電源プラグ、コードが異常に熱い。
- ・こげ臭いなどのニオイがする。

◀ ペットが本体に尿をかけたり、電源コードをかじらないように注意する

感電や発火の原因になります。

万一、上記のことが発生した場合は、お買い上げの販売店、または最寄りのお客様ご相談窓口にご相談ください。

！ 注意

⊘ 禁止

◀ 本体の上に腰をかけたり、乗ったりしない

落ちたり転倒したりして、けが、故障の原因になります。

◀ 不安定な場所には置かない

転倒すると、けがや故障による感電の原因になります。

◀ 洗濯物、布、カーテンなどで吸気口や排気口をふさがない

空気の循環が悪くなり、発熱や発火の原因になります。

◀ お手入れの後は、水分を十分に拭いてから乾かし、ぬれたままでは使わない

感電やけがの原因になります。

◀ お手入れに塩素系、酸性の洗剤は使わない

洗剤から有毒ガスが発生し、健康を損なう原因になります。

◀ ベンジン、シンナーでふいたり、殺虫剤などをかけたりしない

ひび割れや感電、引火の原因になります。

◀ 発煙タイプの殺虫剤を使うときは、運転しない

蓄積した薬剤成分が、あとで使ったときに放出され、健康を損なう原因になります。

◀ 吸気口や排気口に、指や棒などをいれない

けがや感電、故障の原因になります。

◀ 本体を水に浸したり、丸洗いしない。

内部の電気部分に水が入ると、ショートや故障の原因になります。

◀ 凍結するおそれのある場所に設置しない。

本機が正常に動作しなくなるおそれがあります。凍結のおそれがあるときは、本体内部のピースガードと水を捨ててください。

◀ 排水用ホースの周囲が氷点下にならないよう注意する。

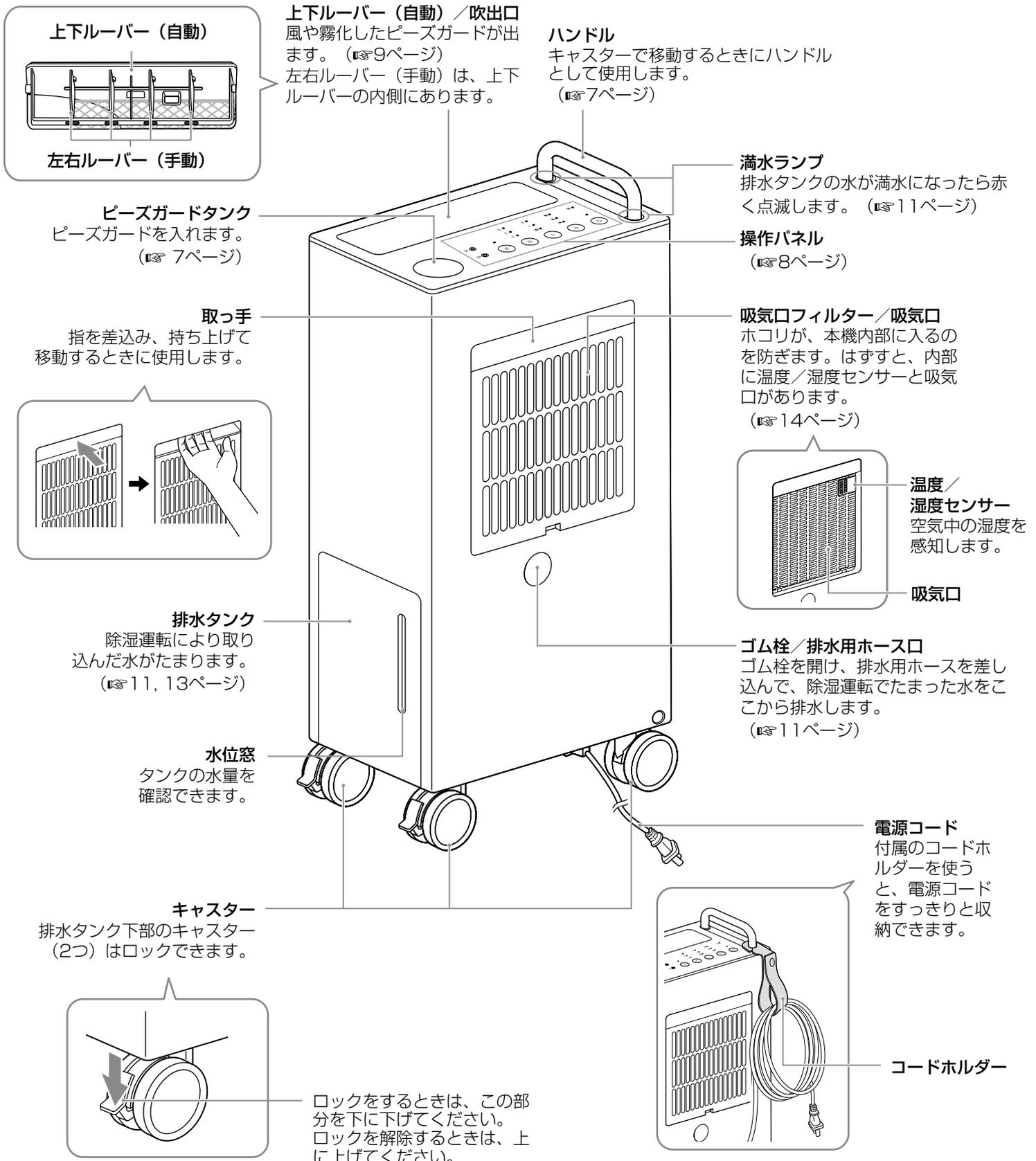
内部の水が漏れ、感電、漏電、火災の原因となります。

- ◀ **本体を傾けない。**
排水タンクの水やピースガードがこぼれ、本機が故障したり、除菌・消臭効果が少なくなる可能性があります。
- ◀ **引火性のある危険物（スプレー缶など）を本体の近くに置かない。**
火災の原因となります。可燃性ガスや油の漏れるおそれのある場所でも使用しないでください。
- ◀ **発熱器具の近くで本体を使用しない。**
本体から出る風が直接燃焼器具にあたると、燃焼器具が不完全燃焼する原因となります。
- ◀ **可燃性のもの（火のついたたばこなど）を吸気口に近づけない。**
火災の原因となります。
- ◀ **薬品を扱う場所で使用しない。**
故障や火災の原因となります。
- ◀ **長い間風を体に直接当てない。**
体調不良の原因となります。
- ◀ **除湿モード、衣類乾燥モード時には人のいる部屋では長時間使わない。**
室内の温度が上昇し、乾燥して、体調不良の原因となります。
- ◀ **除湿した水を飲んだり飼育用に使わない。**
健康を害するおそれがあります。
- ◀ **狭い場所（家具のすき間やクローゼット）で密閉した空間で使用しない。**
故障や火災の原因となります。
- ◀ **高いところに置いて使用しない。**
落下の原因となります。
- ◀ **風呂場などで使用する場合は、水が掛からないように注意する。**
故障の原因となります。
- ◀ **排水用ホースが折れ曲がったりせずに確実に排水するよう設置する。**
- ◀ **フロートははずさない。**
排水タンクが満水になっても、運転し続ける原因となります。室内を濡らしたり、感電や漏電の原因となります。
- ◀ **本体を倒して移動・保管しない。**
水漏れ、故障の原因となります。
- ◀ **直射日光の当たる場所やエアコン、暖房器具の風の当たる場所には置かない。**
本体の変形や変色、誤動作の原因になります。
- ◀ **長時間、同じ場所では使わない。**
長時間同じ場所で使うと、本体周辺の壁や床が汚れることがあります。定期的に設置場所を移動することをおすすめします。
- ◀ **テレビやラジオの近くでは使わない。**
映像の乱れや雑音の原因になります。（テレビやラジオからは、1m以上離して設置してください。また、これらの機器と一緒にコンセントに電源プラグを差し込むと、映像の乱れや雑音が発生することがあります。その場合は、別のコンセントに電源プラグを差し込んでください。）

 **指示**

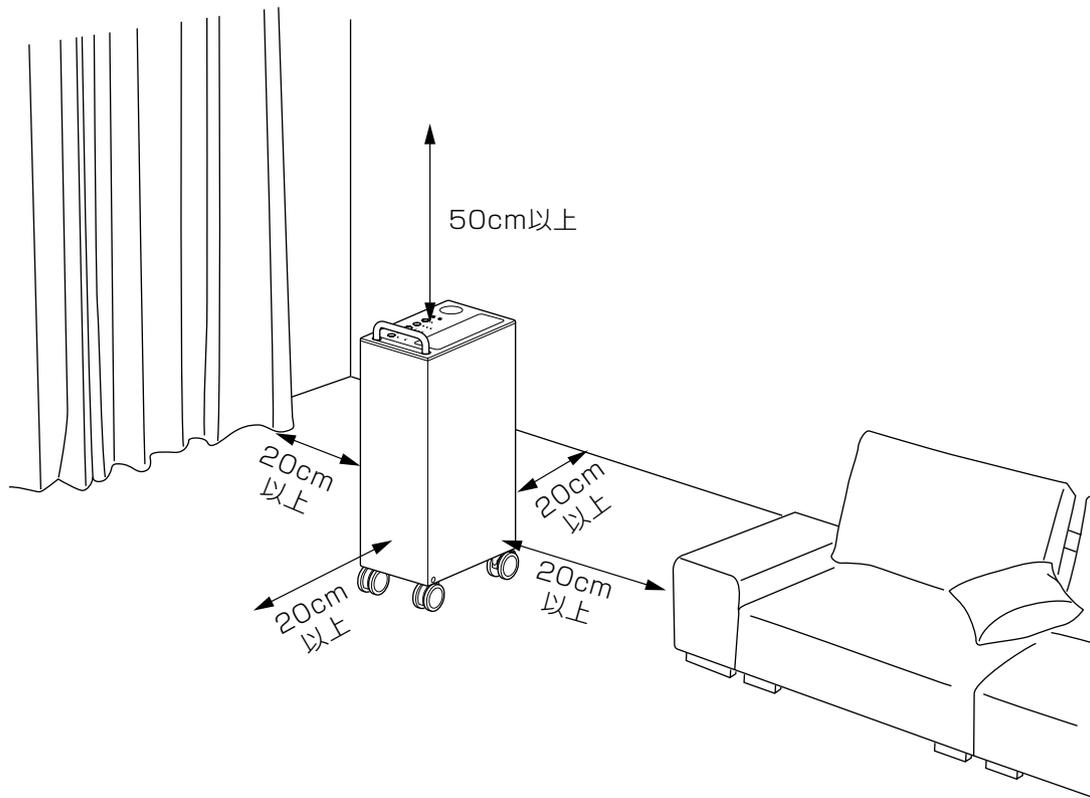
- ◀ **お子様が玩具として遊ばないように注意する。**
本体故障または感電の原因となります。
- ◀ **凍結するおそれのある場所に設置しない。**
本機が正常に動作しなくなるおそれがあります。
- ◀ **移動する前に、必ず排水タンクの水を捨てる。**
本体内部で水が漏れると、感電、故障の原因となります。

各部のなまえとはたらき



設置について

本機を使用するときは、図のように壁や周囲から十分な距離を保ってください。また、本機を設置する際には下記の点に注意してください。

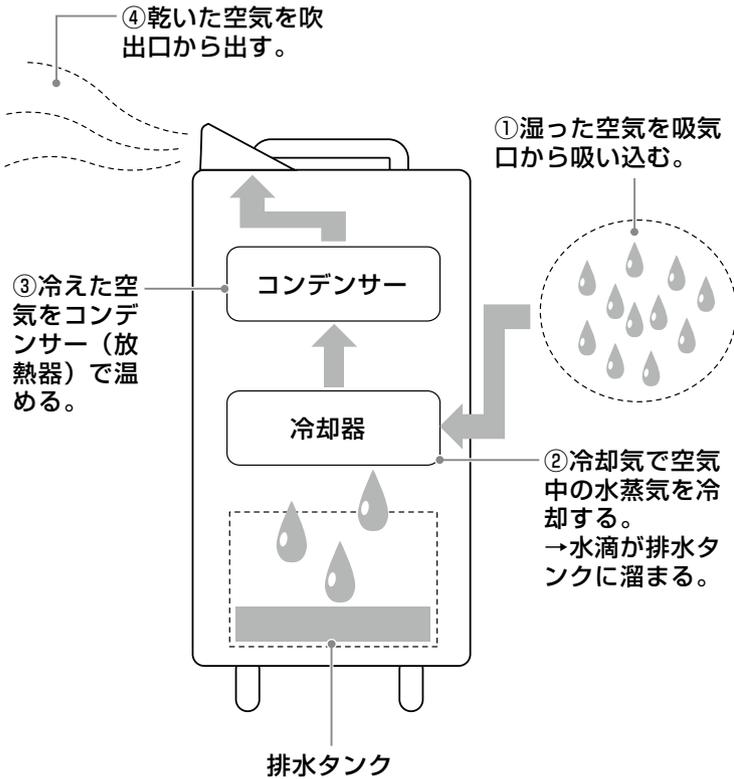


- 窓や壁からなるべく離れた場所に置く。
ピーズガードの効果を発揮させるため、霧が窓や壁に付着しないように、なるべく離れた場所に設置してください。
- 吸気口・吹出口をふさがず、室内の空気がよく循環する場所に置く。
性能低下や故障の原因になります。
- 下記の場所では使用しないでください。
 - 物が落下するおそれのある場所、不安定な場所
物が置いてある棚などの下や、不安定な場所では使用しないでください。思わぬ事故や誤作動の原因になります。
 - 霧が家具、壁、カーテン、天井、電気製品などに直接あたる場所
湿気による故障、しみ、変形の原因になります。
 - 電磁調理器やスピーカーの近くなど、磁気の多い場所
本機が正常に動作しないことがあります。
 - 直射日光があたる場所、暖房機の上、暖房機の近くや温風があたる場所
本機が変形または変色することがあります。
 - 塩分の多いところ（海浜地区など）、硫化ガスの多いところ（温泉地区など）、機械油や油煙の多いところ
故障の原因となります。
- 温度が約5℃～35℃のお部屋で使用してください。

除湿機能について

本機のしくみ

湿気を多く含む温かい空気が冷たいものの表面に触れると、水滴が生じます。この現象を利用し、本機に取り込まれた（湿気を含む）空気を冷却器に当て、水分を取り出すことにより、除湿します。



ご注意

- 本機にはエアコンのような冷房機能はありません。
- 運転中には熱が発生します。そのため、ご使用環境によっては、室温が約2℃～5℃上がる場合があります。
- 環境によっては、湿度を55%～60%に維持できないことがあります。

使用時の室温について

温度が約5℃～35℃のお部屋で使用してください。以下の場合、本機内部の圧縮機（コンプレッサー）が停止し、送風運転になります。（除湿、衣類乾燥はできません。）

◀ 室温が約5℃以下のとき

排水タンクの水が凍結するのを防ぐため、衣類乾燥モード、除湿モードを停止し、送風運転となります。

◀ 室温が約35℃以上のとき

本機への負担を避けるため、除湿モード、衣類乾燥モードを停止し、送風運転となります。

◀ 電源プラグをコンセントに差し込んだ直後、または除湿モード、衣類乾燥モードを停止した直後

約3分間は、本機への負担を避けるため、送風運転となります。

◀ 霜取りのとき

本機周辺温度が約15℃以下になると、本機内部に霜が付くことがあるため、自動的に霜取り（送風運転）をします。約45分に1度、約10分間圧縮機（コンプレッサー）が停止し、風量強で送風運転します。お部屋の温度が低いときは、1度の停止時間が長くなります。（作動中は除霜モードインジケータが点灯します。（☞8ページ）

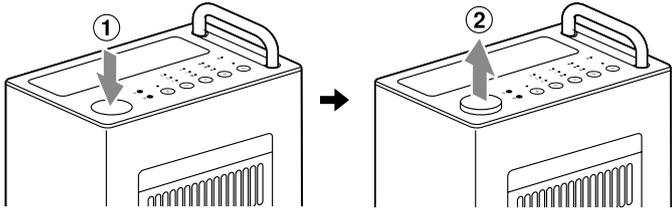
自動運転停止機能

切り忘れ防止のため、すべてのモードでは運転開始から12時間経過すると、自動的に停止します。（「ピー」という音がすると同時に運転が停止し、タイマーインジケータと電源インジケータが点滅します。）

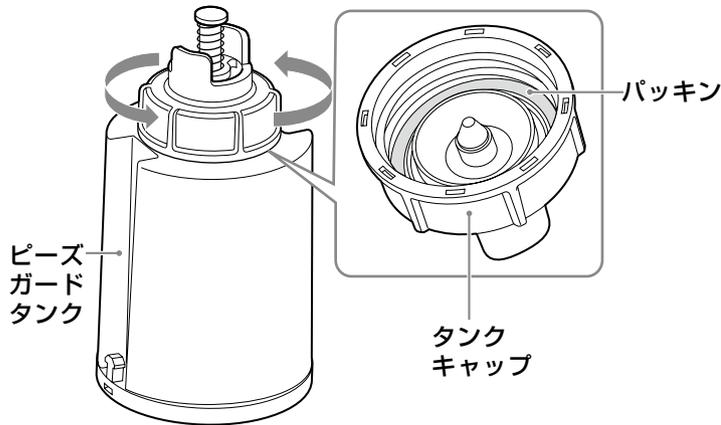
準備する

ピースガードを入れる

- 1 ピースガードタンクを取り出す。
①の部分を押し、ピースガードタンクが出てきます。タンク周囲の凹部に指を引っ掛け、タンクを上を持ち上げます(②)。

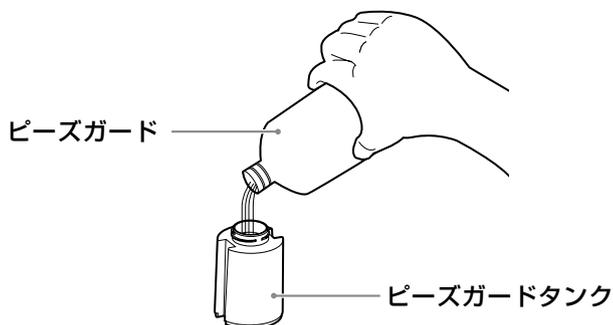


- 2 タンクキャップをはずす。
タンクキャップを反時計回りに回し、はずします。



- ご注意**
タンクキャップのパッキンがはずれやすいので、落とさないようご注意ください。パッキンがはずれると水漏れの原因になるので、必ず取り付けて下さい。

- 3 ピースガードタンクにピースガードを入れる。



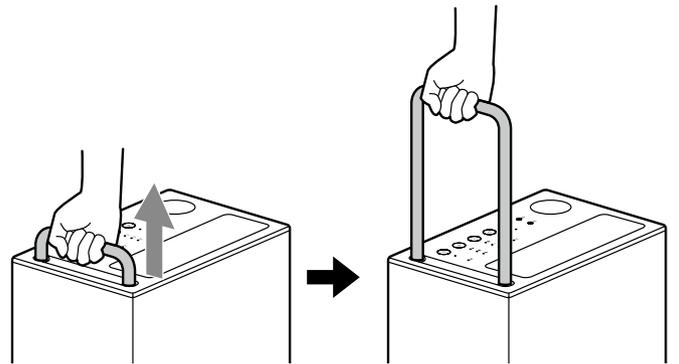
- ご注意**
タンクを持ち運ぶときは、タンクキャップが上になるように持ち運んでください。

- 4 タンクキャップを閉め、ピースガードタンクを本体にカチッと音がするまで押し込む。

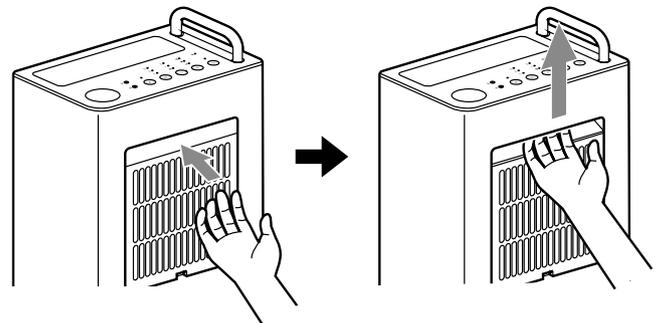
- ご注意**
- ピースガードを使用しない場合でも、ピースガードタンクをセットしてご使用ください。異物などが入り、故障の原因になります。
 - ピースガード以外の液体は絶対に使用しないで下さい。故障の原因になります。

設置場所に移動する

- 1 運転を停止する。(☞10ページ)
- 2 排水タンクの水を捨てる。(☞11ページ)
本機に水が残っていない状態にしてください。
- 3 設置したい場所に移動する。
ハンドルを上引っ張り、キャスターで移動することができます。

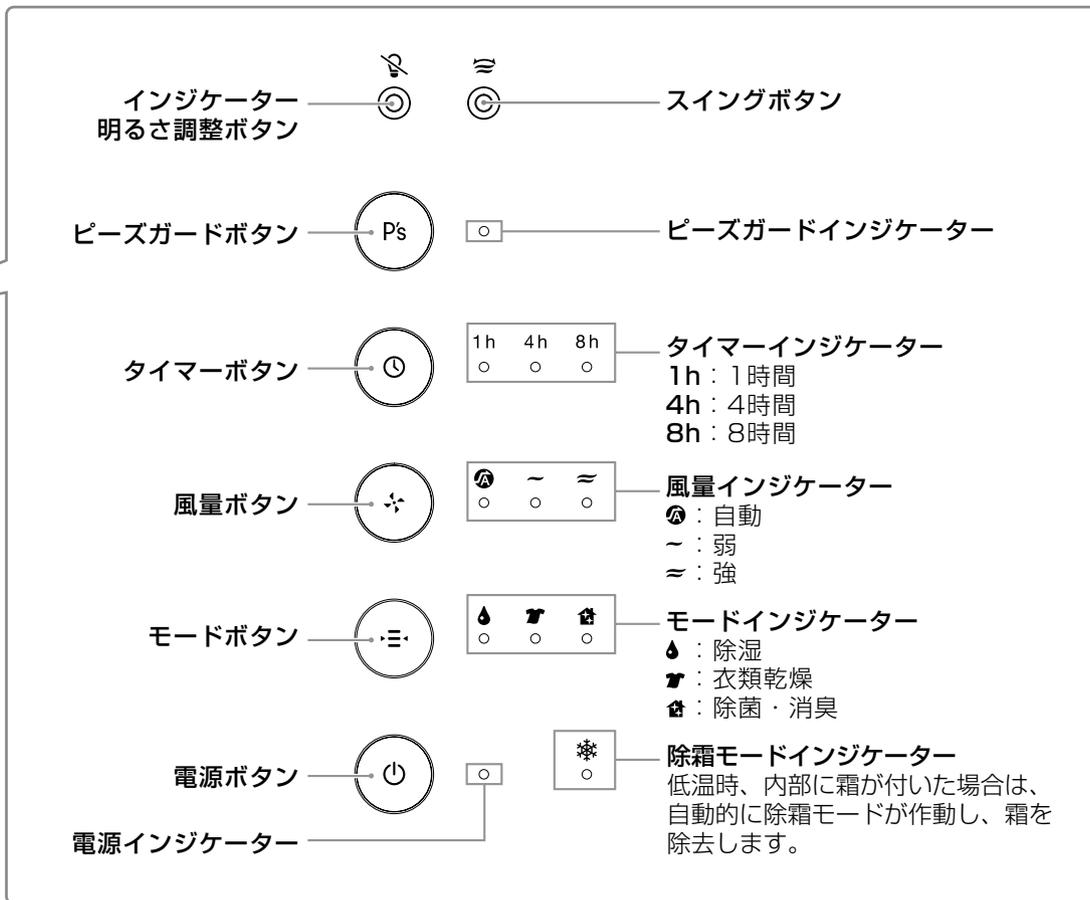
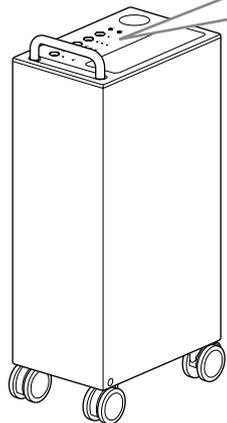


本機を持ち運ぶ場合は、取っ手を持ち上げて移動してください。



- ご注意**
- 絶対にハンドルを持って本機を持ち上げないでください。
 - 電源コードを引っ張って、本機を移動しないでください。
 - 移動するときは、電源コードがキャスターに巻き込まれないようご注意ください。電源コードが破損するおそれがあります。
 - キャスターが付いている底面部以外の面をひきずって本機を移動しないでください。床を傷つける原因となります。

使いかた



運転を開始する

1 電源プラグをコンセントに差し込む。

ご注意

外出時や長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 電源ボタン (⏻) を押す。

上下ルーバーが開き、運転を開始します。(起動時は除湿モードに設定されています。)

除湿する

モードボタン (⋮) を押し、除湿モード (💧) を選ぶ。

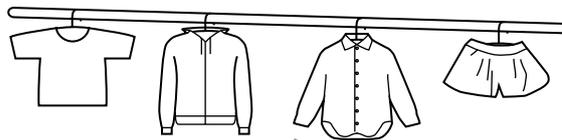
除湿モードインジケーターが点灯し、除湿を開始します。

ご注意

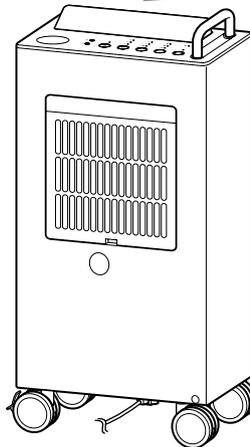
周囲の温度が約5℃以下または35℃以上のときは、本機の故障を防ぐため、除湿ではなく送風運転になります。

衣類乾燥する

1 本機の吹出口から出てくる風が衣類に当たるよう、本機を設置する。



吹出口と衣類の間は、20cm以上離してください。



2 モードボタン (≡) を押し、衣類乾燥モード (r) を選ぶ。

衣類乾燥モードインジケータが点灯し、衣類乾燥を開始します。

3 「風向を変える」 (☞ 9ページ) を参照し、風向を変える。

ご注意

周囲の温度が約5℃以下または35℃以上のときは、本機の故障を防ぐため、除湿ではなく送風運転になります。

除菌・消臭する

モードボタン (≡) を押し、除菌・消臭モード (☼) を選ぶ。

除菌・消臭モードインジケータおよびピースガードインジケータが点灯し、ピースガードによる除菌・消臭を開始します。ピースガードが無くなると、ピースガードインジケータが点滅します。「ピースガードを入れる」 (☞ 7ページ) を参照してピースガードを補充してください。

ご注意

- このモードに除湿機能はありません。
- ご使用前にピースガードがピースガードタンクに入っていることを確認してください。
- 除菌・消臭モードのときは、ピースガード機能をオフにできません。(ピースガードボタンを押すと、「ピピピ」と警告音が鳴ります。)

除湿/衣類乾燥時に除菌・消臭する

ピースガードボタン (Ps) を押す。

ピースガードインジケータが点灯します。除湿中に除菌・消臭したり、衣類を乾燥させながら衣類を除菌・消臭します。

ご注意

- ご使用前にピースガードがピースガードタンクに入っていることを確認してください。
- ピースガードが無くなると、ピースガードインジケータが点滅します。「ピースガードを入れる」 (☞ 7ページ) を参照してピースガードを補充してください。
- 除菌・消臭モード中はピースガードボタンを押しても、更なる除菌・消臭はできません。(ピースガードボタンを押すと、「ピピピ」と警告音が鳴ります。)

風量を調節する

風量ボタン (☆) を押し、風量を自動 (Ⓐ)、弱 (-)、強 (=) から選ぶ。

自動を選ぶと、運転中は各モードに最適な風量に自動的に切り替わります。お好みで風量を変えたい場合は、弱か強を選んでください。

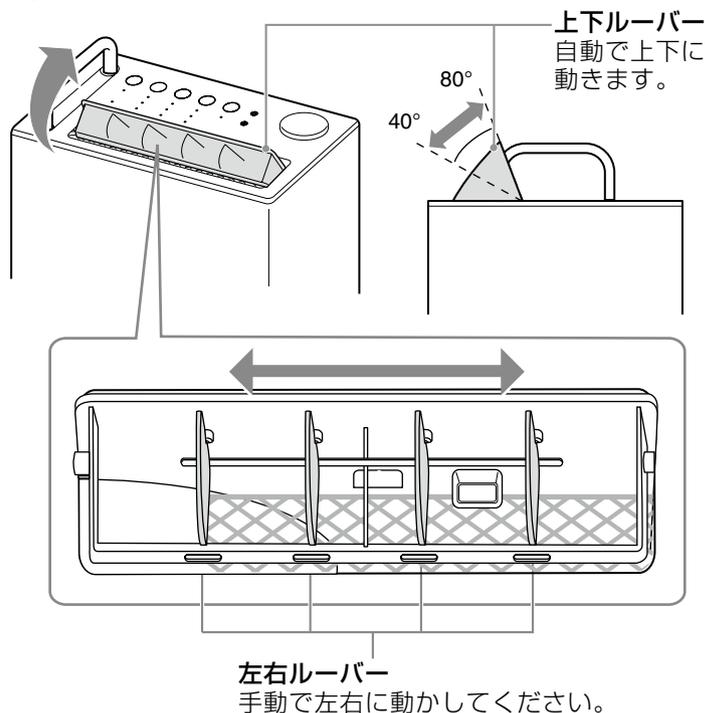
風向を変える

スイングボタン (≡) を押す。

上下ルーバーが上下 (40° ~ 80°) に動き、風が吹く方向が自動的に変わります。

お好きな角度のところでスイングボタンを押すと、その角度でルーバーが固定されます。(調整可能角度は、下の図を参照してください。)

内部にある左右ルーバーは、手動で左右に向きを変えることができます。4つのルーバーは、全て連動して動きます。



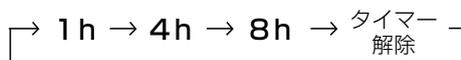
ご注意

吹出口内部には物を入れないでください。故障の原因となります。

運転時間を設定する

タイマーボタン (⓪) を押し、運転時間を選ぶ。

タイマーボタンを押していき、1時間 (1h)、4時間 (4h)、8時間 (8h)、タイマー解除を選びます。設定した時間が経過すると、自動的に本機の電源が切れます。



インジケーターの明るさを調整する

インジケーター明るさ調整ボタン (☞) を押す。
明るめと暗めの2種類の明るさを選んでください。

運転を停止する

電源ボタン (⏻) を押す。
すべてのインジケーターが消灯し、上下ルーバーが閉じます。

排水のしかた

タンクが満水になったら、運転が停止し、満水ランプが赤く点滅します。排水タンクの水を捨ててください。

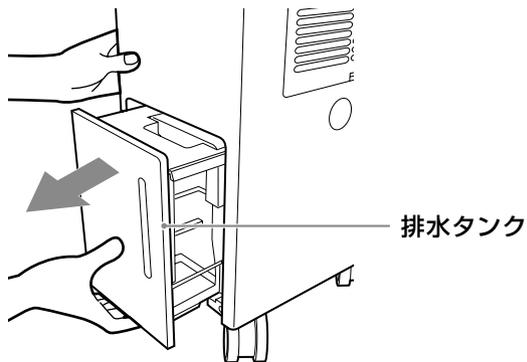
排水タンクを取り付けるときのご注意

- 排水タンクは必ず取り付けてください。排水タンクがセットされていないと、本機は動作しません。
- 排水タンクは、本体にしっかりとはめこみ、確実にセットしてください。
- 排水タンクは、力強く中に押し込まないでください。本体が故障するおそれがあります。

排水タンクの水を捨てる

1 排水タンクを取り出す。

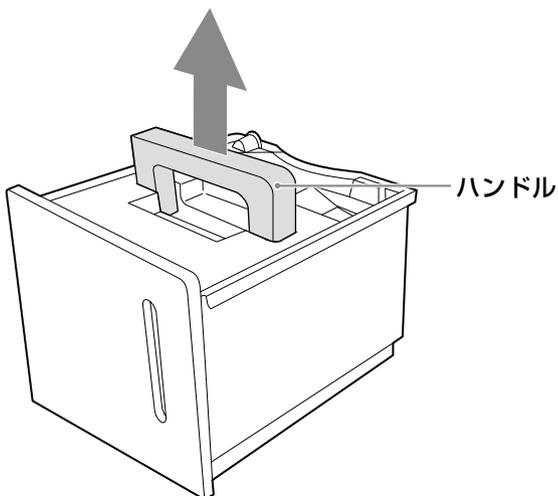
排水タンクの下に手を差し込み、排水タンクを引き出します。



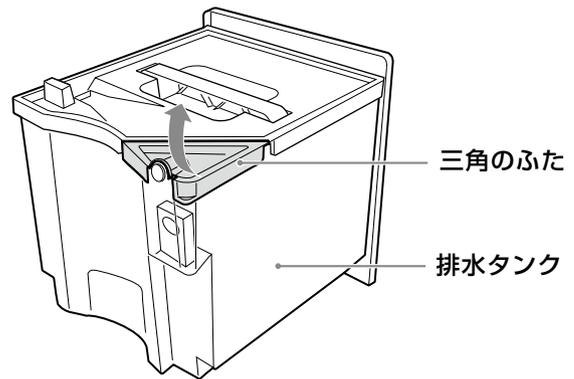
ご注意

排水タンクを引き出すときは、本体を押さえながら、水平に引き出してください。本機内部に水がこぼれるおそれがあります。

2 ハンドルを上引き出し、持ち運ぶ。



3 排水タンクの三角のふたを開け、水を捨てる。



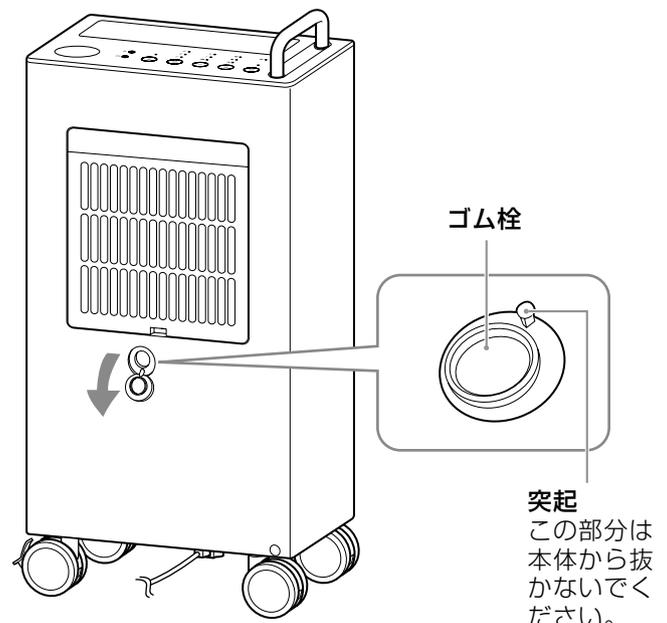
4 三角のふたをきちんと閉じ、排水タンクを本体にセットする。

満水ランプが消灯し、運転を再開します。

ホースを使って連続排水する

1 排水タンクを本機にセットする。

2 背面のゴム栓を開ける。

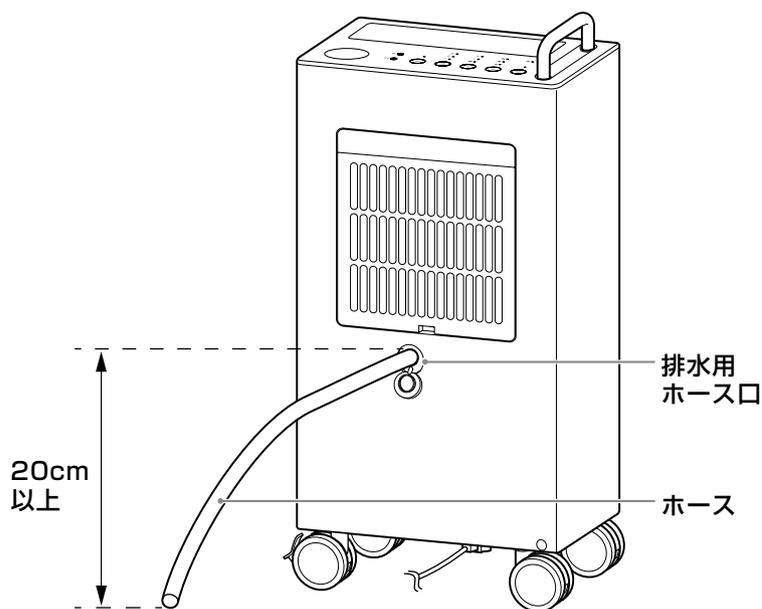


ご注意

背面のゴム栓を開けるときは、紛失を避けるため、ゴム栓の突起部分を抜かないでください。

3 付属のホースを排水用ホース口にしっかり差し込む。

市販のホースを使用する場合、内径12mm、外径16mmのものをご使用ください。必ずホースは排水用ホース口より低く、先端は20cm以上低い位置になるように設置してください。



ご注意

- ホースは確実に差し込んでください。しっかり差し込まないと、本機内部に水が漏れ、故障するおそれがあります。
- 口が広がっているホースは使用しないでください。本機内部に水が漏れるおそれがあります。
- 排水用ホース口から外に出ているホースは折り曲げないでください。
- ホースは氷点下にならない場所でご使用ください。ホース内の水が凍結し、本機内部の水が外にこぼれるおそれがあります。

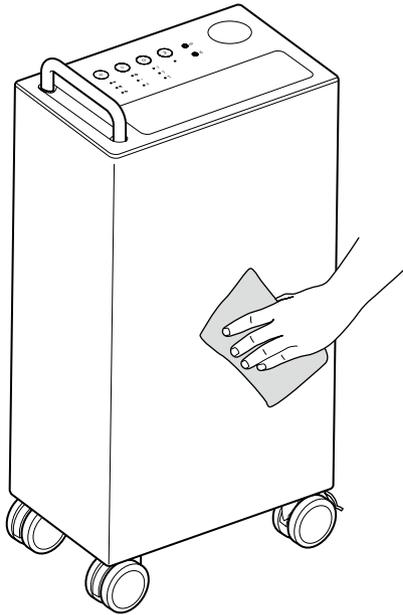
お手入れのしかた

お手入れするときのご注意

- お手入れする前には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本機に水をかけないでください。感電、けが、故障の原因になります。
- アルコール、シンナー、ベンジン、みがき粉などは使用しないでください。本機を傷めるおそれがあります。
- 使用中にお手入れしないでください。感電やけがの原因になります。
- お手入れに塩素系またはアルカリ性の洗剤は使用しないでください。有毒ガスが発生する原因になります。

本体 / キャスター

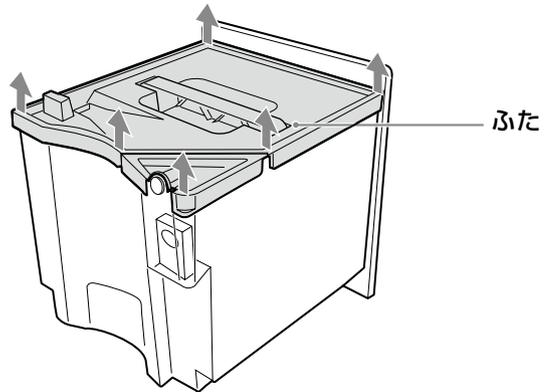
2週間に1度掃除してください。乾いた柔らかいふきん、または固くしぼったふきんで拭いてください。



ご注意

本体を直接水につけて洗わないでください。

2 排水タンクのふた全体をはずし、台所スポンジなどを使って洗ってください。



ご注意

汚れがひどい場合は、中性洗剤（食器用洗剤）を薄めたぬるま湯で洗ってください。

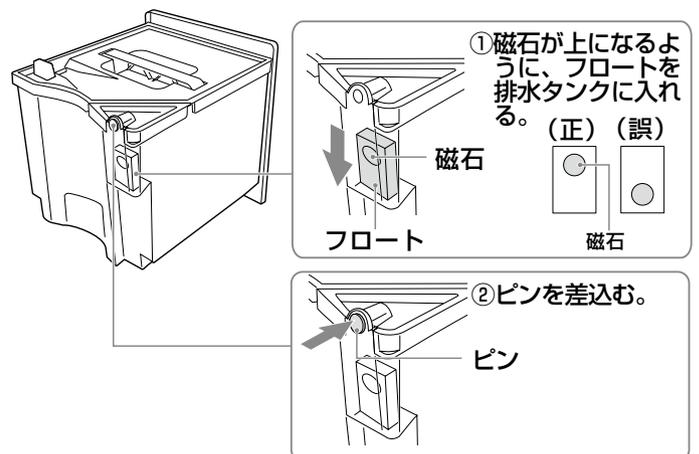
3 柔らかい布で水分を拭き取る。

ご注意

- フロートを破損しないようご注意ください。
- フロートがきちんと取り付けられていることを確認してください。

フロート

排水タンクに水がたまると、フロートが浮き上がり、水量が検知されます。お手入れ中にフロートがはずれた場合は、フロートを図のような向きに入れ①、ピンを差し込んでください②。



- 4 排水タンクにふたを取り付ける。
水漏れしないよう、しっかりと閉じてください。

- 3 掃除機で本体吸気口のココリを吸い取る。

ピースガードタンク

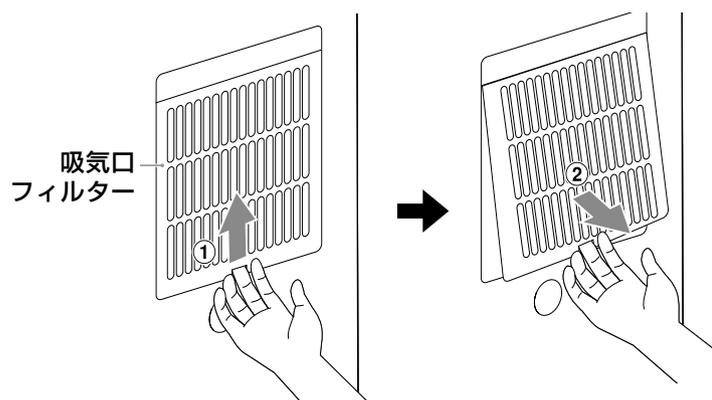
週1度以上掃除してください。

- 1 「ピースガードを入れる」の手順1、2（[7ページ](#)）を参照してピースガードタンクをはずし、タンクキャップと内部を水洗いする。
- 2 柔らかい布で水を拭き取ってください。

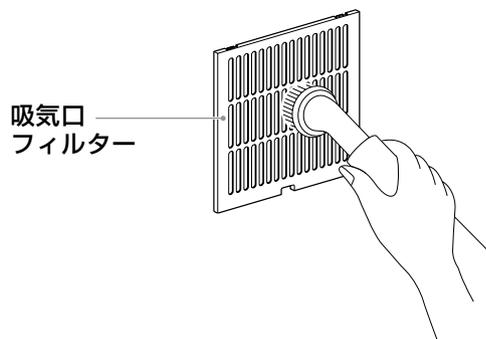
吸気口フィルター

2週間に1度掃除してください。

- 1 吸気口フィルターをはずす。
指をフィルターの下に差し込み、上に押し上げ（①）、フィルターを外側に引いてください（②）。

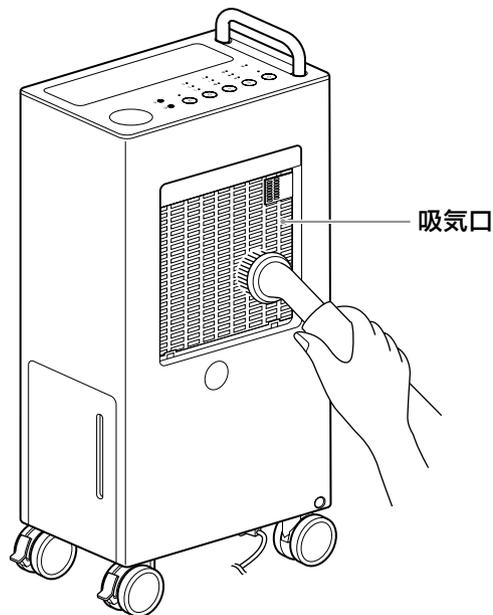


- 2 掃除機でフィルター両面のホコリを吸い取る。



ご注意

- 汚れがひどいときは、以下の方法で掃除してください。
- ① 台所用合成洗剤を薄めた水にフィルターを約10分間漬ける。
 - ② しっかりとすすぐ。
 - ③ 陰干しする。



排水用ホース口／ホース（連続排水している場合）

約2週間に1度、本機背面を掃除してください。また、ホースが詰まっているなどの異常が無い点検してください。

長期間使わないとき

- 1 本体内部を乾燥する。
ピースガードが無い状態で除菌・消臭モードで運転すると、本体内部を乾燥できます。「ピースガードを入れる」の手順1、2、4（[7ページ](#)）を参照してピースガードタンクの液体を捨て、ピースガードタンクを本体に戻してから、モードボタンで除菌・消臭モード、風量ボタンで自動を選択し、2時間以上運転してください。
- 2 排水タンクの水を捨て、排水タンクと本体のお手入れをする。
「本体／キャスター」（[13ページ](#)）から「排水用ホース口／ホース（連続排水している場合）」（[14ページ](#)）までを参照してください。
- 3 ポリ袋などを本体にかぶせ、直射日光が当たらない、乾燥した場所に保管する。

故障かな？と思ったときは

こんなときは	確認事項と対処方法	参照ページ
除湿量が少ない。 除湿しない。 排水タンクに水がたまらない。 いつまでも快適な湿度にならない。	①吸気口フィルターがふさがっていませんか？ 吹出口または吸気口がふさがっていませんか？ →本機背面の吸気口フィルターや吹出口、吸気口をふさがないようにご注意ください。汚れている場合は、お手入れをしてください。	14
	②部屋の構造、湿度／温度によって、除湿量は変わります。 低い湿度／温度のときは、除湿量は少なくなります。	6
	③除湿モード、衣類乾燥モード中に周囲の温度が5℃以下または35℃以上のときは、本機の故障を防ぐために以下の通りに運転します。 5℃以下：本機内部に霜が付いたり、排水タンクの水が凍るのを避けるため、自動的に送風運転に変わります。 35℃以上：保護装置がはたらき、本機内部を冷却するため、自動的に送風運転に変わります。 ※湿度が高いときも、保護装置がはたらき、送風運転となります。	6
	④温度が高いとき、温度／湿度が低いときは、送風運転に切り替わるため、除湿しません。	6
	⑤室温が15℃以下になると、除霜モードが自動的に作動し、送風運転となります。この間は、除湿ができないため、水がたまりません。	6
	⑥部屋が広かったり、ドアと窓を何度も開閉していると、除湿効果が低くなります。	-
	⑦同じ場所に水蒸気を発生させる機器が設置してあると、除湿効果は低くなります。	-
	⑧低湿度（50%以下）には維持できません。	-
霧が出ない。 ピースガードが出ない。	①製品が傾いたりしていませんか？ →水平で安定した場所に設置してください。	-
	②ピースガードタンクが割れたりしていませんか？ →カドー・サポートセンターへご連絡ください。	17

こんなときは	確認事項と対処方法	参照ページ
本体内部のファンが動かない。 運転が停止する。	①満水ランプが赤く点滅していませんか？ →排水タンクが満水なので、水を捨ててください。	11
	②排水タンクを正確にセットしていますか？ →排水タンクを確実にセットしてください。	11
	③フロートは取り付けられていますか？ →フロートを正しくセットしてください。	13
	④電源プラグは確実に差さっていますか？ →電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。	8
	⑤運転開始から、操作をせずに12時間が経過しましたか？ →操作をしないまま12時間が経過すると、本機は自動的に運転を停止します。もう一度電源ボタンを押して運転を再開してください。	6
	⑥停電していませんか？ →電源復旧をお待ちください。	-
風が出ない。	本機背面の吸気口フィルターや吸気口がふさがっていませんか？ →吸気口フィルターおよび吸気口のお手入れをしてください。	14
音大きい	①室温が低すぎませんか？ →低い室温のときに運転すると、数秒間音が大きくなる場合があります。（使用条件により音が大きくなる期間は変わります。）	-
	②本機を安定した場所に設置していますか？ →振動の無い、水平で安定した場所に設置してください。	-
	③吸気口フィルターがふさがっていませんか？ →吸気口フィルターのお手入れをしてください。	14
	④吸気口または吹出口がふさがっていませんか？ →ふさいでいるものを除去してください。	-
風量がひとりでに切り替わる。	①風量を自動に設定していませんか？ →風量を自動に設定していると、各モードに応じて最適の風量に自動的に切り替わります。	9
	②「除湿量が少ない。／除湿しない。／排水タンクに水がたまらない。／いつまでも快適な湿度にならない。」の②～⑤を参照してください。	15
部屋が暑い。	除湿モード、衣類乾燥モード中は、吹出口から温かい風が出ます。そのため、閉め切った部屋で使用すると、室温が上昇します。正常です。	-
水が漏れる。	本機を倒したり、傾けたりしませんでしたか？ →本機を傾けると、排水タンクの水がこぼれ、本機が故障するおそれがあります。水平で安定した場所に設置してください。	-
衣類が乾かない。	環境によっては、十分に乾かないことがあります。 →再度、衣類乾燥モードを試してください。	8
吹出口から出る風が臭い。	本機内部が汚れている可能性があります。 →「お手入れのしかた」の「長時間使わないとき」の手順1を参照し、定期的に内部乾燥をしてください。	14

仕様

本機は50Hz、60Hzいずれの地域でもご使用になれます。

転居などにより電源周波数が変わっても、部品を取り換えたり、調整する必要はありません。

型名	DH-C7000		
電源	交流100V 50/60Hz共用		
電源周波数		50Hzの場合	60Hzの場合
定格除湿能力 (L/日) ※1		6.5	7.5
除湿可能面積の目安	木造住宅	8畳 (14m ²)	9畳 (16m ²)
	コンクリート住宅	16畳 (27m ²)	19畳 (31m ²)
消費電力 (W)	除湿 (強) 室温 35℃/湿度 90%	210	235
	除湿 (強) 室温 27℃/湿度 60%	170	187
	衣類乾燥 室温 27℃/湿度 60%	172	185
	除菌・消臭 (強)	35	38
運転音 (dBA)	除湿 (強)	45	45
	衣類乾燥	48	48
	除菌・消臭 (強)	47	47
待機時消費電力 (W)		0.4	0.4
冷媒フロン類	R134a		
外形寸法 (mm)	幅 327×奥行 207×高さ 682(ハンドルを引き出した場合：854)		
重量 (kg)	約 12		
電源コード長 (m)	約 1.8		
ピースガードタンク容量 (mL)	約 90		
排水タンク容量 (L)	約 3.5		
付属品	取扱説明書、保証書、排水用ホース (2m)、コードホルダー、ピースガード (750mL)		

※1：除湿モード>風量強で運転し、室温27℃、相対湿度60%を維持し続けたときの1日あたりの除湿量です。

- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

修理に関するご相談ならびに、お取り扱い・お手入れに関するご不明な点は、
弊社サポートセンターにお問い合わせください。

カドー・サポートセンター ☎0120-707-212

株式会社カドー

〒108-0071 東京都港区白金台4-2-11 白金台クレスト 8F
電話：03-6455-7610

cado